

認知症当事者体験学ぶ

岡山

5大学学生 連携団体 対談や交流行事

福祉や看護を学ぶ岡山県内5大学の学生有志が連携し、認知症の啓発などを行う団体・オレンジパートナーのイベントが19日、岡山市内であった。「誰も

が安心して認知症になれるまち」をテーマに、対談や交流行事を通じて認知症の人が主体的に挑戦できる社会の重要性を学んだ。約80人が参加。対談

は39歳で若年性認知症と診断され、全国で講演する仙台市の丹野智文さん(50)が学生らの質問に答える形で進められた。丹野さんはスマート

フォンのアラーム機能を使って、スケジュールと持ち物を管理するなど物忘れ対策の工夫を紹介。「できる」とはたくさんある。自分で決めれば記憶に残る」と述べ、「当事者が前向きに笑顔で生きることが、周囲の幸せにつながる」と訴えた。

スポーツ体験や各大学の活動報告のポスター展示もあり、実行委員長岡山県立大2年門脇史華さん(20)は「当事者の意見は教科書では学べないこと。経験を地域に広げた」と話していた。オレンジパートナーは2022年秋に県立、川崎医療福祉、美作、新見公立、ノートルダム清心女子の5大で設立した。

(斎藤章一朗)



「誰もが安心して認知症になれるまち」について考えた啓発イベント